

1 地産地消でオーガニック給食を実現させるためには

(1) 有機農業の推進に向けて

- ① 「全国オーガニック給食協議会」に参加し、先進的な事例等を研究しながら、今後どのようなことに取り組んでいく考えか伺う。
- ② 伊豆の国市では、有機農業促進事業として、有機農業を実践する農業者を育成するため、実証圃場を用いて、実技を交えながら研修を行っている。磐田市でも、このような取組は必要と考える。見解を伺う。
- ③ 有機農業を推進し、地産地消と学校給食への導入を進めるためには、一般市民にも自分ごととして考えてもらう工夫が必要だと考える。見解を伺う。

(2) 地元産の有機栽培の農産物を学校給食に導入することについて

- ① オーガニック食材を学校給食に導入することについて、どのように考えているのか伺う。
- ② 市内の給食施設で米飯用に使用される米は全て磐田市産とのことだが、米の使用量は、一日平均何キロで、年間の総量はどのくらいか。また、1 k g 当たりの単価はいくらか。
- ③ 市内の有機栽培米の生産量は、どのくらいか。また、1 k g 当たりの単価はいくらか。
- ④ 給食に使用する米を有機栽培米に変える場合、課題は何か。また、実施可能な日数だけそれらの米を使用することについて見解を伺う。

2 みんなを守る磐田の防災について

(1) 原子力防災について

- ① 「磐田市原子力災害広域避難計画」に関する情報提供について、「避難先自治体との調整などを踏まえて、広報いわた等を通じて順次市民への情報提供をしていく」とのことだが、「広報いわた」への掲載時期について伺う。また、広域避難計画において避難先自治体との調整にどのような課題があるのか伺う。
- ② 市民への啓発として、現在進められている「わたしの避難計画」に磐田市版の原子力災害を取り入れるべきと考える。見解を伺う。
- ③ 磐田市の安定ヨウ素剤の備蓄場所の現状と、備蓄場所に選定した理由を伺う。
- ④ 米原市のように指定避難所への分散備蓄及び、園や学校での備蓄、そして、その場で配布、服用できる体制づくりを磐田市でも行うべきと考える。見解を伺う。
- ⑤ 市民と行政がともに原子力災害に対する正しい理解を深め、市民の立場から原子力災害対策をより具体的にするための提言を行う、市民委員会の設置が必要だと考える。見解を伺う。